

23年度

パドラーズトピックスー13

東日本大震災一いつの考え方の報告 気仙沼からの報告(6月18日～6月20日)



6月18日、気仙沼市の新月パーキング場で「軽トラ市」が開催されていました。3月29日に最初に気仙沼に入ったときにこのパーキング場で、武田雄高さんと待ち合わせた場所です。この時簡易トイレで用を足しましたが、今は通常使える水洗でした。あれから3ヶ月近くになり、地域の方の復興に向けてのたくましさを感じます。

南郷住み快く計画其之①としてのどろ上げ大作戦第2弾です。泥上げの他にもまだまだいろいろな計画がありそうです。楽しみです。



秋田からはパドラーズ20名、秋田学生復興支援ネットワーク40名、遊学舎さんから10名と合わせて70名が参加して行いました。南郷の地元からは20名と気仙沼ボランティアセンターから160名の応援とRQさんからも80名と合わせると今回も330名の大ボランティアになり、思ったよりも泥上げ作業が進み、またボランティアが午後3時くらいで帰ってしまうので、側溝のふたの閉め作業と土嚢回収が残り、19日の3時以降と20日の午前中に南郷ベースが主体で自分たちの町を少しでもキレイにという思いで後片付けをしていました。



南郷市5-5に旗めくパドラーズ拠点の象徴のぼり旗です。この地で活動を行うことは地域のみなさんの協力のおかげだと思います。



第2弾も作戦計画を十分練って行われました。



パドラーズの会員は今回も側溝の蓋上げと、泥上げに蓋締めも行いました。今回初めて参加した、藤原会員や、2回目の柏谷さんの女性人も頑張ってくれました。



詰まった側溝が勢い良く流れるのが嬉しい中村理事です。



初めて参加したノースアジア大学生の安保さんが手に豆が出来るのでテーピングをしてもらっているところです。今回一番人気者であだ名が「組長」と付けられ、親しみを込めて地元ボランティアの皆さんに「組長、組長」と呼ばれていました。



秋田からは遊学舎の皆さん、大学生に、筑波市からもボランティアがバスを連ねて参加してくださいました。



本部前にデーンと構える「トトロ」です。ボランティアのマスコットになって皆さんに安らぎと勇気を与えています。



南郷地域も確実に綺麗になってきています。大川辺りも重機が入り確実に復興に向けて進んでいるようです。10月には大川でカーヌーが出来そうな気がしてきました。



実際に泥上げをすることで、以前鼻をつくヘドロと魚の腐った臭いが確実に少なくなりました。住む環境を自分たちで作りだそうと、また【気仙沼の復興は南郷から】と地域の若い南郷ベースのメンバーは語っていました。心強いことです。と言っても彼らには地域のための正義感や義務感よりも、「俺たちは趣味でやっている」と口ぐせに話すことが印象的でした。南郷ベースのこのような動きに、地域の自治会、婦人部（震災後に結成）も協力し、ボランティアのためのおにぎりのサービスや、トイレの提供など地域がひとつになって行っているような気がします。武田雄高さんは言います。「趣味できれいになれば最高だ」と。ますます南郷ベースには目が離せません。第3弾も7月2、3日に決まりました。パドラーズもお手伝いをしたいと思いますので、皆さん宜しくお願いします。



地域の床屋さんもう営業を行なっていましたし、武田眼科医院の前もこのようにきれいになり、ししおりの状況も周りのガレキが撤去されてご覧のようになり、確実に復興に向かっていくようです。



気仙沼市立新月中学校の避難所です。仙台から整体師のメンバー10名が癒し隊として月一回の割合で各避難所を回っているそうです。今回、秋田学生復興支援ネットワークの学生3名が、避難所の状況を知りたいとのことで訪れました。ソ連で学生の大会に被災地でのボランティア活動を発表するそうです。3人は被災された方から当時の状況など聞かされて、震災の凄さを感じていたようです。

ソ連で学生の大会に被災地でのボランティア活動を発表するそうです。3人は被災された方から当時の状況など聞かされて、震災の凄さを感じていたようです。



陸前高田市内もだいぶガレキや重油タンクも片付けられてきていました。



一本だけ奇跡的に残った松の木です。

20日は陸前高田第一中学校避難所での6回目の理美容の奉仕活動に行ってきました。

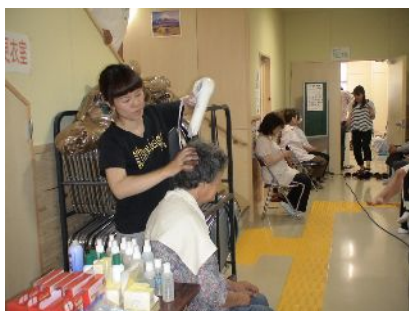


今回はグランチェさん、おしゃれサロントカクさんとの合同チーム11名と地元ボランティア3名も協力して行いました。



瞬間湯沸器も2台にし、お顔剃りや軽いフェイシャルマッサージと眉カットに簡単なメイクとメニューが増えたせいか54名と今までにない人数の方にサービスができました。

娘さんに手を引かれてシャンプーとカットをうけた佐藤さんは「ありがたや、ありがたや」と何度も頭を下げお礼をしながら手を合わせてくれました。



午後1時にスタートして、やすむ暇なく6時まで奉仕してくれたメンバーには心から感謝をしたいと思います。帰る時に皆さんに挨拶したときも、「また来て、また来いよ」と言われ、「また来ます。」と言いました。7月4日に7回目を決めました。

今回も多くの方から、バスタオル、化粧品をいただき、南郷の伊東さんとししおりの渡辺さんと第一中学校で配りました。また心からお礼を申し上げます。



避難所も一時は1200名の方がいましたが、今は400名弱となりました。多くの方が仮設住宅や、新たな生活を求め県外に移り住み始めたようです。自ら被災者でありながら、この避難所で理容のボランティアを行ない、私たちの活動を心から

応援してくれました柳下ご夫妻も隣町の仮設住宅に入居が決まったとの連絡も入りました。仮設住宅に入りたくても入れない方もいる中で、まだまだ先の見えない活動ですが、「出来ること」を前提に活動したいと思います。